

FRESH
フレッシュItoshima

#06



うた れい こ
宇多 玲子さん(23歳/神在)
生命保険会社 コンサルティング営業

憧れは、カッコいい女性 みんなの笑顔が私の喜び

糸島地区で生命保険の営業活動を行っています。

今の会社に入社したのは今年の4月。まだ8か月しか経っていませんが、毎日の営業が充実していて、あっという間の8か月だったように思います。

厳しいといわれている営業ウーマンをめざしたのは、女性としてカッコよくありたかったから。また人見知りの性格を改善するため、人とかかわりが多い、この仕事に就こうと思いました。

仕事では、カタチが見えない商品を相手に分かりやすく伝える話力が必要であり、いつも明るく笑顔でいるためにも高いモチベーションを維持する必要があります。

くじけそうなときもありますが、糸島のみなさまの温かい笑顔に支えられながら、これからも頑張っていきます。

自薦・他薦を問いません。このコーナーに登場していただける、市内の若者をお待ちしています。

【申し込み】糸島市情報政策課 ☎ (332) 2063

表② 市の助成金を受けた研究

研究課題名	研究概要
糸島産の原料を使ったラーメンの開発に関する調査研究	ラー麦を原料とする糸島産ラーメンの製造に関する研究と開発を行う。
GISによる雷山川および瑞梅寺川流域の動的洪水ハザードマップと最適避難ルートマップの作成	住民が安全に避難できる洪水時最適避難ルートマップの作成を、地理情報システム(GIS)を活用して行う。
農産物規格外品等の再生利用と循環型社会システムの先導的地域モデル	食品残さから価値の高い飼料を作り出し、地域の廃棄物の有価物化、飼料国内自給率向上、飼料の安全・安心・安定供給のモデル化研究を行う。
瑞梅寺川以東における避難所の適地選定のための意思決定支援	地域の住民が洪水発生時に避難できる適地の選定を行い、当該地域の洪水災害に対する脆弱性の軽減を目指す。
糸島地域における情報化農業推進のためのIT基盤システムの開発	携帯端末による農作業履歴収集に加えて、気象観測装置を設置することにより、は場環境情報の収集を行う。
糸島市における森林資源の保全と循環的な利活用に向けた政策課題の抽出	糸島市で、住民参加・参画による森林保全と田園都市型の森林資源利活用の具体像を示しうるような森林・林業政策の課題の抽出を行う。

※来年5月の研究発表会で、研究成果の報告を行います。

農地・山林・海岸の保全活用、ITを活用したものなど、九州大学の研究分野の多様性を示すものでした。

有識者や市民などで構成する選定委員会で審査を行い、助成を受けて行われる6つの研究が決定しました。(表②)なお、助成金を受けた研究の成果については、市が主催する研究発表会(来年5月予定)で研究者から報告をしてもらう予定です。

■市民レベルの活動促進

九州大学連携交流事業補助金制度

九大学生が私たちの身近に

増え、市民レベルでの九州大学との交流も多くなりました。市は、市民が九州大学と連携して行う交流事業にも補助金制度を設けています。

現在、4団体が補助を受け、事業を行っています。

九州大学と連携した交流事業を行うときは、ぜひこの制度をご活用ください。(補助率や補助金額など詳しくはお尋ねください。)

■九州大学を見に行こう

九州大学は遠い存在ではありません。九州大学が近くにあるということは、市にと

問い合わせ
糸島市学研都市推進課
☎ (332) 2064

九大伊都キャンパス
見学問い合わせ
九州大学ビッグオレンジ
☎ (802) 23000

つての「強み」であり、これからもずっと存在し続ける「友達」なのです。

「友達」のことを知るには、まず会うことが大事です。伊都キャンパスは気軽に見学をすることができですので、一度見に行ってみてはいかがでしょうか。

九州大学を生かしたまちづくり

■市の重要施策の一つ

九州大学は、国内屈指の基幹総合大学として多くの有望な人材を輩出し、またアジアを重視した知の世界的拠点大学として多くの留学生が学んでいます。

市はこの九州大学が持つ人的・知的資源と糸島市の地域資源を結び付け、積極的なまちづくりに生かすため、新市基本計画の重点プロジェクトの一つに「九州大学を生かした地域づくりプロジェクト」を掲げています。

■九州大学の移転状況

平成17年10月に工学系が第1期開校し、平成21年4月

表① 九州大学の移転スケジュール

第Ⅰステージ (平成17年～平成19年)	第Ⅱステージ (平成20年～平成23年)	第Ⅲステージ (平成24年～平成31年)
工学系Ⅰ・Ⅱ、 理系図書館Ⅰ 【約5.2千人】	全学教育、比較社会文化、 言語文化他理系図書館Ⅱ 【約10.8千人】	理学系(平成26年)、 情報基盤センター(平成27年)、 中央図書館(平成29年)、 文系(平成29年～30年)、 農学系(平成31年)、 その他(平成31年) 【約18.7千人】
用地取得	平成25年完了予定	
移転期間 15年間		

平成17年10月に、本市と福岡市にまたがる地域に九州大学伊都キャンパスが開校しました。それから5年、伊都キャンパスに通勤・通学する人は1万人を超え、九州大学で最大の人員を有するキャンパスとなりました。

には六本松キャンパスの全学教育(1・2年生対象の基礎的な教育部門)が移転しています。

今後の移転スケジュールは、表①のように予定され、平成31年度の農学系の移転で完了予定です。約1万9千人が集う巨大な「まち」が糸島半島に誕生するのです。

■組織ぐるみで連携推進

九州大学との連携協力協定を締結

これを契機に、九州大学との結び付きをより強めるため、市と九州大学は平成22年5月29日に「連携協力協定」を締結しました。

これは、大学の知的資源や活力と市の豊かな地域資源や文化を結び付け、産業の高度化や新産業創出、地域課題の解決、教育研究活動、診療活動の進展など、地域社会の振興を目的としています。協定の主な内容は、

- ①九州大学と糸島市が有する資源の相互活用
 - ②九州大学と糸島市民との交流の促進
 - ③伊都キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり
- 今後、大学と市とで組織的

な連携事業を積極的に行うことにしています。

■糸島が研究フィールド

九州大学連携研究助成金制度

連携協力の実現のため市は今年、九州大学の研究者が市内をフィールドとして行う研究のうち、地域課題の解決や地域資源の掘り起こし



「国立大学法人九州大学と糸島市との連携協力に関する協定書」の調印式が、今年5月29日に九州大学伊都キャンパス 福盛財団記念館で行われ、相互に地域社会の振興に協力し合うことになりました